

学校は建ててほしい でも、知らないところで進めないで



唐突で性急すぎる 小中一貫校建設 市議会でも反対や疑問の声

補正予算審議 3会派8名が反対

7月26日、和泉市議会の最終本会議で、平成25年度和泉市一般会計補正予算が可決されました。この補正予算には、はつが野地区への「小中一貫校設計委託料6000万円」が含まれています。補正予算は、可決されましたが、3会派8名もの議員の反対がありました。予算案採決に先立つ討論では、反対した3会派（共産党・清和会・緑風クラブ）の代表がそれぞれ意見を述べました。いずれの会派代表も反対する理由に、はつが野地区への「小中一貫校設計委託料」が予算に含まれていることをあげました。

補正予算で8名もの議員が反対し、しかもいずれも、小中一貫校建設問題を理由にしていることは、この間の和泉市教育委員会の動きがあまりにも唐突で性急過ぎるため、いかにこの問題での市民合意が得られていないかを物語っています。

予算が可決されたことをよいことに今後も市民の声を十分に聞かないまま、小中一貫校建設が独断的にすすめられるようなことがあってはなりません。

新校建設は市民合意で

マンモス化解消にならない？

和泉市には児童数が1000人を越えるマンモス校が、複数あり新設校の建設は切実な願いです。今回の小中一貫校の建設は過大過密規模解消を大きな理由の一つに挙げています。しかし、現在の計画では青葉はつが野小学校の校区に変更の予定はなく、新校建設によって現在の過大過密が解消されるわけではありません。

私たちは、子どもたちに十分な教育を保障するため、小学校、中学校それぞれの増設、校区編成の見直しが必要であると考えます。

また、小学1年生から中学3年生までが同じ敷地内ですごすことになれば、小学生の休み時間の安全の確保、中

和泉市教育委員会議 「守る会」請願を不採択

6月20日、和泉市教育委員会議で、私たち「和泉市の子どもと教育を守る会」が提出した「7月市議会に施設一体型小中一貫校建設に向けた予算を計上しないことを求める請願」の審議が行われました。私たちの請願は教育委員の全員一致で不採択となりました。

私たちの4つの請願要旨に対して十分な審議がなされたとはとても言い難いものでした。特に問題なのは請願要旨「独断専行をやめ市民の参加・参画の教育行政を」についてです。私たちは請願書で「和泉市の全中学校校区での小中一貫教育の実施、和泉市初の施設一体型小中一貫校の開設というこの重要な教育政策の立案過程に市民の参画は一切なされていません」として、「独断専行をやめ市民の参加・参画の教育行政を」と主張しました。しかし、これについての論議は残念ながら一切ありませんでした。

※詳しくは和泉市ホームページ「和泉市教育委員会定例会会議録」をご覧ください。

学生のクラブ活動など、不安な点も多くあります。一つひとつの不安に対する対策も示さないまま、設計が進められることにも、納得できません。

自治基本条例の立場で

2011年3月に制定された和泉市自治基本条例第28条は「私たち市民は、政策の立案過程に参画することができます。行政は、市民が政策の立案過程に参画することができるように、適切な措置を講ずるよう努めなければなりません。」と定めています。

この立場で、小中一貫校の是非も含めて保護者・住民・教職員の声を十分に聞く、そして、よく話し合い、市民合意の新校建設に向かうべきではないでしょうか。

※はつが野に予定される新設校と光明台中学校の学校敷地面積を比較する記事をこれまで2回掲載しました。これに対して市民の方からなぜ光明台中学校を取り上げたのかとの質問がありました。これは光明台中学校がその学校規模に比べて敷地面積で余裕を持った学校のよい例だからです。

